

第45回幹事会議事次第

議 題

1 委員会関係

提案1 国際委員会の分科会等の委員の決定

提案2 分野別委員会の分科会の委員の決定

提案3 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会の委員の決定

提案4 憲章起草委員会の委員の任期及び設置期間の延長

2 シンポジウム等

提案5 「国際惑星地球年(IYPE)学生コンテスト<地球と共に生きる・想う・問う>」

提案6 「第1回日本物理学会キャリア支援センターシンポジウム」

提案7 「21世紀スポーツ科学研究セミナー 世界で活躍する若手スポーツ科学研究者からの発信」

1	
幹事会	45

提 案

国際委員会における分科会等の委員の決定

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 国際委員会における分科会等委員の決定
- 3 提案理由 下記の国際委員会における分科会等の委員の決定をする必要があるため。

記

○委員の決定（追加2件）

(国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2008分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
井上 達夫	東京大学大学院法学政治学研究科教授	第一部
野家 啓一	東北大学 副学長・付属図書館長・文学研究科 教授	第一部
今田 高俊	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授	第一部
猪木 武徳	人間文化研究機構国際日本文化研究センター研究部教授	第一部
山岸 俊男	北海道大学大学院文学研究科教授	第一部
鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部

(国際委員会国際会議主催等検討分科会原子核物理学国際会議 INPC2007 小分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
藤田 佳孝	大阪大学理学研究科・准教授	特任連携会員
嶋 達志	大阪大学核物理研究センター・助教	特任連携会員
早川 岳人	日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門・研究主幹	特任連携会員
久保野 茂	東京大学大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター・教授	特任連携会員
梶野 敏貴	自然科学研究機構国立天文台理論研究部・准教授	特任連携会員
住吉 光介	沼津工業高等専門学校教養科・准教授	特任連携会員
小山 勝二	京都大学理学研究科・教授	特任連携会員
寺西 高	九州大学大学院理学研究院・准教授	特任連携会員
青木 和光	自然科学研究機構国立天文台光赤外研究部 ・助教	特任連携会員
梅田 秀之	東京大学大学院理学系研究科・准教授	特任連携会員

2	
幹事会	4 5

提 案

分野別委員会における分科会の委員の決定

- 1 提案者 第二部長
- 2 議 案 分野別委員会における分科会の委員の決定（2分科会）
- 3 提案理由 下記の分野別委員会における分科会の委員の決定をする必要があるため。

記

○委員の決定（追加2件）

（基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
鍋島 陽一	京都大学大学院医学系研究科教授	第二部会員
宮下 保司	東京大学大学院医学系研究科教授	第二部会員
福島 雅典	京都大学医学部附属病院教授	連携会員

（基礎生物学委員会・応用生物学委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同 実験動物分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
濱口 道成	名古屋大学大学院医学系研究科長 名古屋大学医学部長	連携会員

3	
幹事会	4 5

提 案

地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する
検討委員会の委員の決定について

- 1 提案者 第一部部長

- 2 議 案 課題別委員会における委員の決定

- 3 提案理由 日本学術会議の運営に関する内規第12条の規定に基づき、
地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討
委員会の委員の候補者を幹事会に推薦することにより候補者を
決定するため。

記

○委員の決定（追加1件）

（地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
亀山 康子	独立行政法人国立環境研究所主任研究員	連携会員

4	
幹事会	4 5

提 案

憲章起草委員会の委員の任期及び設置期間の延長

- 1 提案者 憲章起草委員会委員長
- 2 議 案 憲章起草委員会設置要綱を別紙のとおり改正すること
- 3 提案理由 委員会設置期間を平成20年4月30日まで延長することに伴い、設置要綱を一部改正し、委員の任期を延長する必要があるため。

憲章起草委員会設置要綱(平成18年10月26日日本学術会議第28回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後	改正前
(略) (設置期限) 第4 委員会は、 <u>平成20年4月30日</u> まで置かれるものとする。 (略)	(略) (設置期限) 第4 委員会は、 <u>平成19年10月31日</u> まで置かれるものとする。 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

5	
幹事会	4 5

国際惑星地球年(IYPE)学生コンテスト<地球と共に生きる・想う・問う>の開催

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議案 標記コンテストを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主催 日本学術会議地球惑星科学委員会
国際惑星地球年日本、朝日新聞社（予定）
- 2 後援 日本ユネスコ国内委員会（予定）
- 3 協賛 (独)産業技術総合研究所, (独)海洋研究開発機構, (独)宇宙航空研究開発機構, (独)土木研究所, (独)国立科学博物館, (独)防災科学技術研究所（以上予定）
- 4 協力 (社)東京地学協会, 日本地球惑星科学連合（以上予定）
- 5 日程 締切：2007年11月15日（必着）
発表：2007年12月7日 ウェブサイト上で
- 6 趣旨

国際惑星地球年（IYPE）とは、地球の科学のおもしろさと大切さを世界中の人々に知ってもらい、その持つ知識と情報を積極的に利用してもらうために、ユネスコと国際地質学連合（IUGS）が中心となって取り組んでいる国際的プログラムです。

地球のすばらしさを一層深く知ってもらうとともに、地球科学への関心を広く一般に高めることをめざし、地球科学がどのようにして社会的課題の解決を可能とするか、また人々がどのようにしてそれをよく知り、親しむことができるか、解決の可能性・潜在性と認知の波及性にむけて取り組むプログラムのひとつとして、国際惑星地球年（IYPE）学生コンテストを開催します。

このコンテストは「社会のための地球科学」を掲げる国際惑星地球年の10テーマに焦点をあてた創造的な作品を募集し、優秀な作品の作成者（全世界から350名の学生）を、2008年2月12日・13日の両日、パリのユネスコ本部で開催されるIYPE Global Launch Event（国際惑星地球年2008式典）に招待します。

IYPE Student Contest in Japan
国際惑星地球年(IYPE)学生コンテスト
<地球と共に生きる・想う・問う>

募集要項

概要：

国際惑星地球年日本（IYPE日本）では、「社会のための地球科学」をかかげる国際惑星地球年のテーマに焦点をあてた、創造的な作品を募集しています。作品は、エッセイ、詩、絵、写真、コミックなど、あなたの得意な方法で表現してください。

作品：

国際惑星地球年の取り組む下記10テーマ、その課題に焦点をあてた創造的な作品を募集します。

- 地下水—持続的利用をめざして
- 災害—リスクは最小に、関心は最大に
- 地球と健康—よりよい環境を作るために
- 気候—石に刻まれた記録
- 資源—持続的利用めざして
- 巨大都市—より深く、より安全に
- 地球深部—地殻からマントル、そしてコアまで
- 海洋—時の深遠
- 土壌—地球の生きている肌
- 地球と生命—多様性の源

応募者は各自の文化的背景や経験から、自身の判断で自分が好きなテーマを一つあるいはいくつか選び、エッセイ、詩、絵、写真、コミックなど、あなたの得意な方法で表現してください。各テーマの詳しい課題はウェブサイト（www.gsj.jp/iype/）にアクセスして各テーマの小冊子を参考にしてください。

作品は未発表のものに限ります。応募作品は返却しません。また、エッセイや詩など、言語表現を用いる作品の使用言語は英語とします。そのほか、以下の制限を満たしてください。

- エッセイ：1600語以内
- 詩や歌詞：400語以内
- 絵画等：最大A3サイズ
- ビデオ作品等：10分以内

審査と表彰：

IYPEガイドラインに基づき、IYPE国内委員会委員および有識者からなる審査委員会による厳正な審査を行い、最大5点の優秀作品および複数の佳作作品（以上入賞作品）を選びます。IYPE国際法人の最終決定を経た優秀作品の作成者は、来年2月12日～13日の2日間にわたりユネスコ本部（パリ）で開催される IYPE Global Launch Event（国際惑星地球年2008記念式典）に招待されます（注1）。

優秀作品及び佳作作品はウェブ上で公開、後日国内で展示会を行ったり、あるいは出版物として刊行されることもあります（注2）。

注1）成田→パリ往復航空券およびパリ4日間の滞在以外の費用、例えば国内の移動や旅行保険、パスポート取得などに係る費用は自己負担です。

注2）作成者の氏名・学校等名称は誌面やインターネット上などで公表されます。

応募資格：

日本在住の18才～22才の学生（国際惑星地球年2008記念式典に参加可能なこと、英語が理解できることが望ましい）。

応募要項：

◎提出物

1. 応募用紙（添付）
2. 作品
 - ・ エッセイ、詩など：文書ファイルを格納した**CD-ROM**およびそのA4プリントアウト。文書は、12ポイント程度の文字を用い、A4用紙にマージン約3cm、ダブルスペース相当の書式のマイクロソフトオフィスWordファイルとします。
 - ・ 絵画や写真など：作品およびそのコピー（デジタル映像、フォーマットはTIFF、JPEG、あるいはPNG）を格納した**CD-ROM**。作品自体がデジタル作品の場合、そのフォーマットは上記デジタル映像フォーマット、あるいはアドビacrobat7.0互換のPDFとして格納した**CD-ROM**およびそのA4プリントアウト。
 - ・ ビデオ作品：Windows Media Player（バージョン10）で再生可能な作品とし、DVDで提出。
 - ・ 提出するCD-ROMやDVDは、ラベルなどを貼付せずに直接油性ペンで氏名を記入すること。
3. 学生証のコピー
4. 英語能力を示す英検やTOEFLなどの証明書コピー、あるいは担当教授等による証明レター

◎締切

2007年11月15日(木)必着

◎提出先

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7
産総研地質調査総合センター内 IYPE日本学生コンテスト係

6	
幹事会	4 5

シンポジウム「第1回日本物理学会キャリア支援センターシンポジウム」の開催

1. 提案者 物理学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 物理学委員会
日本物理学会キャリア支援センター
お茶の水女子大学
2. 日 時 平成19年12月1日(土) 午後1時～6時
3. 場 所 お茶の水女子大学理学部 3号館 7階 701 講義室 (文京区大塚 2-1-1)

4. 次 第
＜開催趣旨＞

日本物理学会は平成19年度より文部科学省委託を受けて「物理学の資質をもつ人材の活用のためのキャリアパス開発全国展開」を開始し、キャリア支援センターを立ち上げた。その活動の一環として、物理学を駆使して多方面で活躍する人々を紹介し、物理学の豊かな広がりとそのでのキャリアの可能性について、未来を展望するシンポジウムを企画した。

物理学を志す学生、若手研究者、ベテラン研究者さらには日頃物理学には疎遠という人々も聴衆に想定し、チャレンジ精神を持った講師の講演を聴き、さらなる展開へ挑戦するための議論を行う。

＜プログラム＞

開会あいさつ：

- 永宮正治 (高エネルギー加速器研究機構 J-PARC センター長, 日本学術会議会員)
- 坂東昌子 (日本物理学会キャリア支援センター長, 日本学術会議連携会員)
- 郷 通子 (お茶の水女子大学学長, 日本学術会議会員)

I 講 演 (13:40～16:10)

1. 高安秀樹 (株式会社 ソニーコンピューターサイエンス研究所)
「経済物理学最前線：実務とアカデミーの接点」
2. 遠藤真広 (独立行政 法人放射線医学総合研究所)
「放射線医学と物理学 - 医学物理の世界」
3. 和田昭允 (お茶の水女子大学教授, 日本学術会議連携会員)
「宝は学際にある - 生命王国/物質帝国では」
4. 冬木正彦 (関西大学教授) 「理学から工学へ、そしてe-Learning…」

II パネルディスカッション (16:30～18:00)

- 「物理学の夢とロマンと多様なキャリアパス」
ファシリテーター：三浦有紀子 (文部省科学技術政策研究所)

閉会あいさつ：栗本 猛 (日本物理学会キャリア支援センター副センター長)

7	
幹事会	45

提 案

21世紀スポーツ科学研究セミナー 「世界で活躍する若手スポーツ科学研究者からの発信」

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記セミナーを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
2. 共 催 日本トレーニング科学会、日本体力医学会
早稲田大学スポーツ科学学術院
3. 後 援 日本医歯学アカデミー
4. 日 時 平成19年12月22日（土）13：00～17：05
5. 場 所 早稲田大学西早稲田キャンパス14号館101教室

6. 次 第

(1) 開催趣旨

健康・スポーツ科学関連分野では研究対象の多様化と研究方法の細分化がすすむ一方で、各領域を統合する必要性も生じてきております。しかし、それぞれの研究領域では、数多くの優れた若手研究者が輩出されつつあります。そこで、これまでの健康・スポーツ科学にアイデンティティをおきながら、国際的にも最先端の研究を行っている若手研究者によるセミナーを企画しました。このセミナーが優れた若手研究者に刺激を与え、今後の研究への契機になることが期待されます。

(2) プログラム

13時00分～13時15分

開会の挨拶 福永哲夫（早稲田大学スポーツ科学学術院・日本学術会議

連携会員、健康・スポーツ科学分科会副委員長)

13時15分～14時15分

基調講演；唐木英明（日本学術会議第二部部長、東京大学名誉教授）

若手研究者へのメッセージ；食品安全の科学から

14時15分～14時30分 コーヒーブレイク

14時30分～17時00分

司会；大平充宣（大阪大学大学院、日本学術会議連携会員）、

栗原 敏（東京慈恵会医科大学、日本学術会議連携会員）

1. 田内健二（早稲田大学）

：投運動における反動動作の効果とそのメカニズム

2. 久保啓太郎（東京大学）：ヒト生体における腱の役割と可塑性

3. 鈴木康史（奈良女子大学）；身体文化学という新しい試み

4. 後藤一成（学術振興会研究員）

：代謝・内分泌応答からみた合理的な運動・トレーニング処方

5. 橋本健志（カリフォルニア大）

：乳酸に対する骨格筋細胞の応答

17時00分～17時05分

閉会の挨拶 加賀谷淳子

（日本女子体育大学客員教授、日本学術会議会員、健康・スポーツ科学委員会委員長）

7 分科会の開催

健康・スポーツ科学分科会を同場所で開催予定